

(4) 中村小学校

学 校 長 徳弘 純一
校内研究代表者 伊与田 紗代

1. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」
—各教科等における見方・考え方を働かせて—

2. 主題設定の理由

学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、資質・能力ベースの授業、主体的・対話的で深い学びの実現、教科等の見方・考え方を働かせる授業が位置付けられている。その具現化に向け、今年度からは、高知県教育委員会「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業を受け、3年間で国語科、算数科、体育科、理科、社会科、外国語科に取り組むこととなっている。令和2年度の全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査において、国語算数とも全国平均を上回る等、学力向上の取組成果が見られ、一定の学力が定着している。国語科においては、昨年度までの「書くこと」の領域を重点とした取組により、課題に主体的に取り組む児童の姿が見られ、相手に応じて書き方を工夫する児童が増えつつある。しかし、目的に応じて適切な資料を選択することや自分の伝えたいことと図表とを結び付けることに弱さが見られる。また、算数科においては、式の意味理解や図と関連付けた式の解釈、整数・小数・分数などの数の相対関係や図形の構成要素等の理解に弱さが見られる。また、1つの資料の精査・解釈及び複数の資料を関連付けて読むことは両教科に共通した課題である。実際の授業では自分の考えを記述したり、説明したりすることに課題のある児童や、受け身の姿勢で、自分一人でやり切る力に課題のある児童も依然として見られ、学力差もある。

以上のような背景や本校児童の実態から、これまで、10年以上研究を重ねてきた国語科に算数科を研究教科に加え、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり—各教科等における見方・考え方を働かせて—」とした。学習指導要領の趣旨を生かした学習指導において、教科等の見方・考え方を働かせる学習指導となるよう、指導過程や指導方法、発問の工夫をする等、教師の指導性を適切に発揮することで学びや課題に挑戦する意欲を喚起し、子ども同士の関わり合いの質、学びの質、資質・能力の質を高めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

<研究内容>

- (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化と有効な言語活動及び数学的活動の設定、評価規準・評価方法の明確化
- (2) 各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
- (3) 「授業改革2021」をもとにした授業の質的改善の研究
- (4) 国語科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用

<研究方法>

一人年間2回以上公開授業を行う。研究授業では、西部教育事務所や高知県教育委員会小中学校課の指導主事等を招聘するとともに、学年や低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、学習指導案を作成し、模擬授業や先行授業を行う。他の公開授業については、授業構想シートまたは略案を作成。

<研究組織>

- ・研究推進委員会の計画的な実施

- ・3部会「学力向上部会」「仲間づくり部会」「健康・体育づくり部会」の内、研究に関しては「学力向上部会」が担う。さらに、学力向上部会を「授業力向上チーム」「確かな学力チーム」「学習環境チーム」の3チーム編成とし、協働的に研究推進する。

4. 研究の取組

<授業実践> 「高知の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業 授業研究会

【第4学年】国語科

単元名「中小Tシャツ売り上げアップ大作戦」(教材名：広告を読みくらべよう東京書籍)

[育成を目指す資質・能力]

◇表現の工夫や効果の違いに着目して読み、作り手の意図や目的を捉える力

【知識・技能】(2)ア 情報と情報との関係 【思考力・判断力・表現力等】Cオ

[言語活動]

○中小Tシャツの売り上げアップのために広告を作り、作った広告の表現の工夫や効果の違いを踏まえながら作り手の意図や目的を説明する。

中村小学校で販売するPTAのTシャツについて、たくさんの方に知ってもらいたい、Tシャツの売り上げに貢献してもらいたいというPTA会長の依頼を受け、自分たちが広告を作成して売り上げアップに貢献することを目的に教材と関連させて学習に取り組んだ。自分の広告づくりに生かすために、2つの広告を読み比べ、表現の工夫の違いやその効果から書き手の意図や目的を捉えることができるように学習を行った。

◆授業研究会 6月4日◆

☆本時の目標☆

作った広告を読み比べ、表現の工夫の違いやその効果から書き手の意図や目的を考えることができる。

☆本時の言葉による見方・考え方を働かせている姿☆

広告に表現された言葉や写真など、作り手の表現の工夫から目的や意図を明らかにしようとする姿



本時の学習の確認



友達の広告を見合う

キャッチコピーと特長の「ペアルック」のところから、仲良く楽しくなってほしいという書き手の思いが伝わってくるね。



全体で共有

【第6学年】算数科

単元名「比例・反比例」東京書籍

[育成を目指す資質・能力]

◇伴って変わる二つの数量を見いだしてそれらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を考察する力

◇厳密には比例の関係ではないが、比例の関係にあるとみてよさそうな数量を見いだして比例の関係を活かして問題解決する力

◇比例のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする力

[数学的活動]

○伴って変わる二つの数量の関係を目的に応じて表や式、グラフなどを用いて数学的に表現し伝え合う力

○算数の学習場面から比例・反比例の関係を見出して解決し、解決過程を振り返り、統合的・発展的

に考察する活動

- 日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動

5年生比例の学習を想起し、6年生での学習の見通しを持たせる導入とした。様々な事象についての問題解決に向けて、必要な二量を子ども達から見いださせながら、比例の関係を表や式、グラフに表現して考察すること、表や式、グラフそれぞれのよさを知り、使い方を学習して表現することを重視して学習を行った（反比例も同様）。また、日常の問題場面でも比例の考えを使って問題解決できるのか考える学習を行った。

◆授業研究会 11月29日◆

☆本時の目標☆

日常における事象を比例として捉え、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察することができる。

☆本時の言葉による見方・考え方を働かせている姿☆

比例関係に着目し、事象に照らして問題の解決に生かそうとする姿

<問題>

午後3時半までにはジェットコースターに乗ることができるだろうか？



全体で課題の整理



個人思考



グループで課題解決



発表

上記2つの授業実践における学習指導案及び研究通信は本校ホームページに掲載してありますのでご覧ください。

5. 今年度の成果と課題

- 小中9年間の系統性を踏まえた授業づくりを進めることで、小学校で身に付けさせたい力の明確化につながった。また、小中で学習指導案検討会に参加したり、小学校の研究授業を中学校の先生方にも参観していただき協議をする中で、双方の授業研究力が交流され、小中の繋がりを意識した研究を進めていくことができた。
- 子どもが本気になる課題の設定と導入・展開の工夫をすることで、児童が主体的に学ぶ姿が多く見られた。
- 算数科を研究教科に加えたことにより、授業改善・学力向上への意識の広がりや学習指導要領の趣旨や内容の深まりがみられるようになってきた。
- 資質能力、見方・考え方の捉え方が、まだまだ十分とは言えず、教員間での共有はもちろん、学習指導要領解説を読み解き、考えていく必要がある。
- 児童が、学習を通してどんなことができるようになったのか、どんな気づきがあったのかなど学びの自覚ができる学習過程の工夫、まとめや振り返りの内容やさせ方などを充実させる。
- 研究授業からの学びを通して日常の授業の改善を図っていく必要がある。
- カリキュラム・マネジメント表を活用して、国語科を中心に、他教科等と共通する内容同士を関連づけて、意図的計画的かつ効率的に資質能力を身に付けていくことが必要である。